

環境分野に関する意見対応表

資料 1 - 2

No.	委員	意見	対応
部会【環境・都市空間】			
1	山中委員	<p>目指す姿 3 は、地域循環共生圏とあり、連携を取ると言っているのですが、まずは「そういう場をつくりましょう」をしっかりとやり始めることが重要で、地域循環共生圏について、行政同士でもちゃんと相談や話し合いをしますということですね。札幌市はそれをリードしていかなければいけないということがちょっと読みづらいと思います。</p>	<p>地域循環共生圏については、行財政運営の取組方針「北海道と道内市町村との連携」においても、「○脱炭素社会の早期実現（道内各地域で発電された再エネ電力の市内利用に向けた検討や、道内木材利用促進など）」を掲げ、道内市町村等と連携しながら、取り組んでいく考えです。</p>
2	山中委員	<p>目指す姿 4 は、具体的な行動が見えないところが気になる。世界に冠たるという意味は、ハードウェアだけではなく、住んでいる人自らが気候対策や環境保全、生物多様性について学び、行動するということ。世界に冠たるというのは、世界のことも気にしているというわけで、世界のことを考えた札幌市であるというような意味合いを入れるべき。目指す姿の 1 と 2 に書いてあるようなことをやれば世界に冠たるかということ、それだけでは違うと思うので、ここにはそういう世界の視点を入れていただければと思います。</p> <p>また、札幌市は、SDGs に関するユースの声を既に取り上げているので、それを後押しするようなものを入れていただきたいと思います。例えば、市民が環境政策を札幌市に提言できるようなところまで後押しをしてくれるといいかと思います。市民が応援するような施策を入れるべきです。</p>	<p>環境分野の基本目標 1 6 の目指す姿 4 の施策に、「これらの取組をリードする人材の育成や支援などを行います」を追記します。また、具体的な取組については、次期中期実施計画等において、検討していきます。</p> <p>(当初)</p> <p>誰もが環境保全や気候変動対策などに取り組むため、あらゆる世代における SDGs を意識した学びの推進やライフスタイルの変革を促進します。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>誰もが環境保全や気候変動対策などに取り組むため、あらゆる世代における SDGs を意識した学びの推進やライフスタイルの変革を促進するとともに、<u>これらの取組を先導する人材の育成や支援などを行います。</u></p>

No.	委員	意見	対応
3	牧野委員	<p>環境問題というのはすごく時間がかかり、すぐには変えていけないものだと思うのです。例えば、2030年を目標にしたとしても、あと8年ですから、今、12歳ぐらいの子が成人になる頃です。一番重要なのは子どもたちの意識ではないのかなと思うのですね。そして、子どもたちに知ってもらうためには関心を持ってもらうことが必要でして、面白そうだなと思って、それに注意を持ってもらうことがこれからは必要なのではないかなと思います。脱炭素の問題に関してでもそうですし、SDGsに関連し、環境を自分たちの意識で変えていくということも大事です。例えば、道の駅のスタンプラリーみたいなものがありますよね。そういうものを全部制覇したら達成感が味わえるようなものはどうでしょうか。あるいは、札幌市のまちづくり子どもサポーターみたいなもので、自分たちが受けてみようと思った勉強会を一つ一つ制覇していくことによって、いろいろな知識を得て、自分たちも関心を持って関わっていけるようにするなどです。</p> <p>このように、子どもたちの意識をつくることです。意識が変わらないと環境も変わっていかないと思うのですね。でも、全部に共通して考えられるのは、次世代の子どもたちの意識をつくることでして、施策にもそういうことを取り入れていただきたいなと思います。</p>	<p>環境分野の基本目標16の目指す姿4の施策に、「これらの取組をリードする人材の育成や支援などを行います」を追記します。また、具体的な取組については、次期中期実施計画等において、検討していきます。</p> <p>(当初)</p> <p>誰もが環境保全や気候変動対策などに取り組むため、あらゆる世代におけるSDGsを意識した学びの推進やライフスタイルの変革を促進します。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>誰もが環境保全や気候変動対策などに取り組むため、あらゆる世代におけるSDGsを意識した学びの推進やライフスタイルの変革を促進するとともに、これらの取組を先導する人材の育成や支援などを行います。</p>
4	山中委員	<p>牧野委員からあったように、若者の教育というのか、若者の声をちゃんと聞こうというのを、もう少し入れてもいいのかなという気がします。札幌市にはすばらしい市立高校を中心とする仕組みがあるので、高校生への教育もかなり強く書き込んでもらいたいと思います。環境都市に対する若者の学校教育の学びを入れるという視点です。</p>	

No.	委員	意見	対応
5	椎野委員	<p>車については、ゼロエミッション自動車など、テクノロジーを使った技術開発が求められている一方、交通システムをどう最適化していくかも昨今の都市政策では非常に重要だと思えます。</p> <p>具体的に言いますと、公共交通ではオンデマンド交通の普及促進です。ニーズに最適化した省エネルギーの交通システムについて、これは都市空間分野と関連してくるかと思いますが、札幌市において施策を検討されておられるとは思いますが、今後はこういったエネルギー政策とも紐づけて考える必要があるのではないかと思います。</p> <p>また、そのシステムをつくるに当たってはICT技術が必要になってくると思えますので、経済分野とも関連してくるかと思いますが、テクノロジーをどうするというより、人を中心に見たときに、その人がアクセスしやすいICT環境をつくることによって結果として環境負荷の低減に寄与するという人を中心にした見方も取り入れてもいいのかなと思えたので、ご検討をいただければと思います。</p>	<p>都市空間分野の基本目標18の目指す姿4を「四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています。」とし、交通政策とエネルギー政策（環境負荷低減）の関連付けも掲げ、取り組んでいく考えです。</p> <p>また、基本目標18の目指す姿4の施策に「<u>デマンド交通の導入</u>」を、基本目標19の目指す姿1の施策に「<u>A デマンド交通システムや水素燃料車両等の技術を活用した</u>」を追記します。加えて、ICT技術の活用については、分野横断的な施策である「スマート」において、モビリティ分野を含むあらゆる分野でのスマートシティの推進を掲げ、生活の快適性やまちの魅力を高めていくことを目指しております。</p> <p>（修正案：下線部追記）</p> <p>基本目標18目指す姿4：（略）<u>デマンド交通の導入</u>や交通結節点における乗継機能の強化・移動の円滑化などを行います。</p> <p>基本目標19目指す姿1：都心のまちづくりを支える交通体系の強化や居心地が良く歩きたくなる空間の形成に向けて、<u>A デマンド交通システムや水素燃料車両等の技術を活用した新たな公共交通システムの検討を進めるとともに、</u>（略）</p>
6	岡本委員	<p>これだけ雪が降るところでこれだけの人口を抱えているのは世界の中でも札幌しかないと言われるかもしれませんが、雪の処理にエネルギーを使い、解けてしまうものにエネルギーを使っているということに関し、どう対策していくのかも重要な点。</p> <p>都心部であれば常にロードヒーティングをして消し去っていますが、その方法で薄く広く効率的に回しているという話なのか、もう少し上手に雪を夏場にも使えるような話も出てくるのか、どちらかという、雪は邪魔者で、労働力も少なくなっていく中、重油をたくさん焚いて重機を回している状況から抜け出せないのは残念な気がしています。そこにも何か方向性を示しておくことが必要なのではと思っています。</p>	<p>分野横断的な施策である「スマート」において、「ゆきとの暮らし・ゆきの利活用」の主な施策として、「除排雪作業の効率化・省力化」を位置づけているほか、生活・暮らし分野の基本目標5の目指す姿4の施策にも、「ICT等を活用した作業の効率化・省力化」などを位置づけておりますので、更なる除排雪作業の効率化・省力化、ひいては省エネルギー化に取り組んでまいります。</p> <p>また、「スマート」においては、雪氷熱・雪冷熱エネルギーの導入の可能性の検討も位置づけており、この取組を通じたCO2削減効果についても、検討していきます。</p>

No.	委員	意見	対応
7	岡本委員	身近なみどりと書いているところは、市街地の外でボリュームのある緑のイメージに関する内容が主になっているので、まちなかのみどりについても少し触れられないかなと思いました。	市街地におけるみどりについては、環境分野の基本目標17の目指す姿1のほか、都市空間分野の基本目標18の目指す姿3における住宅市街地の施策や、基本目標19の目指す姿1における都心の施策にも「みどりの創出」などを掲げ、取り組んでいく考えです。
8	椎野委員	<p>また、基本目標17でも大人の学びは非常に大事だと思います。今、親世代の自然体験が物すごく乏しくなっています。おじいちゃんやおばあちゃんの世代は、森や川、山などで遊んだのだけれども、今の親世代はそういう自然体験が乏しいまま育て親になっており、その親に子どもが育てられているので、子どもも自然体験の機会や環境教育に対して理解が進まないということがかなり前から指摘されています。</p> <p>一方、その親世代も、子どもができると、子どもと一緒に自然の中に入っていきたい、キャンプがしたい、森で遊びたいというニーズは出てきていますし、特にコロナ禍で人と距離が取れるということから都市近郊にキャンプ場が新しくできており、自然への意識が非常に高まっているのではないかと思います。そういう機会を捉えつつ、まず、子どもを対象に自然体験や環境教育を行えば、親も一緒にそれに参加するので、結果的に親と子が一緒に学んで正しい知識や対応を身につけることができるのではないかと思いますので、単にキャンプを楽しむのではなく、野生生物との付き合い方や自然との共存の仕方を学べるような機会をつくっていけるといいのかなと思います。</p>	<p>環境分野の基本目標17の目指す姿2の施策に、「あらゆる世代が、暮らしの快適性を高める」を追記します。また、具体的な取組については、次期中期実施計画等において、検討していきます。</p> <p>(当初) みどりに触れ合う機会を創出するため、(略) (修正案：下線部追記) <u>あらゆる世代が、暮らしの快適性を高めるみどりに触れ合う機会を創出する</u> ため、(略)</p>
9	牧野委員	<p>今、温暖化というか、気温がどんどん高くなっている中で、グリーンカーテンなどのみどりを活用して、日差しの入り方や温度環境を変えてみるなど、暮らしに取り入れられるみどりもたくさんあると思うのです。</p> <p>ここに暮らしに身近なという言葉も入っていますけれども、もうちょっと具体的に、自分の生活の中にみどりをもっと取り入れて育てていくということもこれから促進していただければと思いますので、それも伝わるように織り込んでいただけるといいと思います。</p>	

No.	委員	意見	対応
10	高野部会長	<p>大通公園という特殊な公園は、雪まつりをはじめ、まさに民間活力を導入しながらいろいろなことをやっていますので、その経験を踏まえてと思います。</p> <p>P a r k - P F I というのは公園のほうでは新しいキーワードですが、札幌市は今までも大通公園でいろいろなことをやってきたではないですか。その経験を踏まえると、P a r k - P F I も一つの手法ですが、大通公園の今までの経験と歴史を踏まえた上での公園の在り方を札幌市ならもっと考えられるのではないかなと思います。</p>	<p>都市空間分野の基本目標 1 9 の目指す姿 1 の施策を修正します。また、具体的な取組については、次期中期実施計画等において、検討していきます。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>みどり豊かなうるおいのある都心を形成するため、<u>大通公園のあり方検討のほか、公園や道路などにおけるみどりの整備・改善に取り組むほか、再開発等の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出や、まちづくり団体などとも連携しながら、みどりのネットワーク化を推進します。</u></p>
11	椎野委員	<p>誰もが健康的で幸福感の高い生活を送っていますとあるのですが、その下に健康に紐づくような内容が明示されていないように思いました。例えば、高齢者の方、高齢者でなくてもいいのですが、今、コロナ禍で在宅時間が増えていきますよね。でも、家にいるのではなくて、外に出かけたくなるようなまちの在り方です。特に、緑地や遊歩道など、歩いていて心地のよい空間を創出することによって人の外出を促す、そうしてある程度長時間歩くという生活習慣を身につけることによって健康になっていく、健康寿命を延伸するというほかの分野ともリンクするような書き方がここに加わってくると、より健康的という具体的なイメージが生きてくるかなと思います。</p> <p>これはハード面の整備もそうですし、市民を交えてお散歩マップみたいなものをつくるなど、細かくはそういうこともあるかもしれませんが、人の視点に立って外に出かけたくなるようなまちづくり、みどりの環境づくりをやっていくというような内容を盛り込めるといいかなと思いました。</p>	<p>環境分野の基本目標 1 7 の目指す姿 2 の施策に、「公園の再整備や機能分担などによる公園の魅力向上」を追記します。</p> <p>また、ウォーカブルについては、分野横断的な施策である「ウェルネス」において、健康寿命の延伸として、健康行動促進（ソフト面の対策）と、行動を行う環境であるウォーカブルシティの推進（ハード面の対策）の両側面から、総合的で効果的な対策を推進することを掲げるとともに、都市空間分野の基本目標 1 9 の目指す姿 1 都心の施策に、都心のまちづくりを支える交通体系の強化や居心地が良く歩きたくなる空間の形成を掲げ、取り組んでいく考えです。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p><u>あらゆる世代が、暮らしの快適性を高めるみどりに触れ合う機会を創出するため、公園の再整備や機能分担などにより公園の魅力向上させるほか、公園利用やみどりづくり活動への参加を促進するとともに、自然歩道等の環境改善などを行います。</u></p>
12	岡本委員	<p>歩いて過ごせる、歩いて使いやすいまちを推進することが本来的には重要なのではないかなと思っています。そもそも車に乗らなくても便利で暮らしやすいまちは札幌の中心部であれば実現できると思います。公共交通や路面電車、地下空間がきちんと整備し、自動車で来ること自体が必要のないまちを目指すのが望ましいと思う。</p>	

No.	委員	意見	対応
13	椎野委員	<p>ヒグマ等の市街地への侵入抑制策についてですが、野生生物（ヒグマ等）のほうがいいかなと思いました。ヒグマが出ると、どうしてもヒグマばかりに注目されがちですけれども、エゾシカがまちに出てきて農業被害をもたらしたりすることもありますし、キタキツネには寄生虫のエキノコックスを持っている個体もいて、餌やりによって公園に居着いてしまうということもあり、2年ぐらい前には清田の公園でそういうニュースがあったかと思いません。個体によっては寄生虫を持っていて、そのふんを吸引したりすると卵が体内でふ化し、肝臓に移動して病気になってしまい、手術をしないと死に至るという恐ろしいものです。ですから、円山動物園にもキタキツネはいません。ヒグマが注目されたというのは一つの機会として、野生生物との付き合い方といいますか、どう共存していくか、その情報を正しく伝え、みんなで考えていくことが大事かなと思います。それに、エゾリスだったら喜びますよね。エゾリスが近くにきたら、うちの学生なんかはとても喜びますけれども、一くりに野生生物とどう付き合うかという捉え方のほうがいいかなと思いました。</p>	<p>環境分野の基本目標17の目指す姿3の施策を下線部のとおり修正します。 （当初） 地域本来の生態系が維持された社会において、安心した市民生活をおくるため、ヒグマ等の市街地への侵入抑制策などを行います。 （修正案：下線部追記） 地域本来の生態系が維持された社会において、安心した市民生活をおくるため、<u>野生動物（ヒグマ等）との共生や外来種による影響に関する普及啓発、市街地への侵入抑制策など</u>を行います。 また、行財政運営の取組方針に「北海道と道内市町村との連携」を掲げており、ヒグマ対策については、道内市町村等と連携しながら、取り組んでいく考えです。 現在、ヒグマの市街地に侵入対策については、石狩振興局内の市町村や警察、猟友会が参加する「ヒグマ対策連絡協議会」の場で情報共有を図っています。また、札幌市と近隣11市町村により構成される「さっぽろ連携中枢都市圏」においても、令和4年4月から「鳥獣対策等に関する取組の推進」を連携事業と位置づけ、圏域における鳥獣被害の防止等のため、ヒグマその他鳥獣対策に関する広域的な取組を推進しております。</p>
14	山中委員	<p>ヒグマが行政区域を知っているわけではないので、行政区域間を移動します。それから、石狩浜において、ごみが散らかっていたり等の環境問題でも、札幌市の住民が起こしている可能性もあります。先ほど地域循環共生圏とあったけれども、こちらにもその考え方を入れたほうがよくて、周辺市町村と対話をしますみたいなことがこの箇所でもあったほうがいいような気がします。</p>	